

「2016年、政治家として一番印象に残っている出来事は何ですか？」

平成29年1月3日

●マイケルさんからの質問

2016年、政治家として一番印象に残っている出来事は何ですか？もしよろしければ教えてください。

●西田昌司の答え

昨年もいろいろな出来事がありました。その中でも一番印象に残っている（と言うよりも、一番腹立たしかった）ことは、例の宮崎謙介元議員のゲス不倫事件でした。

昨年の2月7日に京都市長選挙がありました。我々が応援する（当時2期目であった）門川大作京都市長の3期目を賭けた重要な選挙でしたが、事前調査によると共産党推薦の候補者との接戦が予想される非常に厳しい選挙でありました。結果的には門川市長のダブルスコアによる勝利となりましたが、その陰には我々の様々な努力があったわけです。宮崎元議員のあの事件はそんな最中に起こったのですが、京都府連会長である私の立場を踏みにじるような本当に怒り心頭に発する出来事でした。

宮崎元議員は彼の妻の出産を控えた一昨年の12月に、男性の育児休暇に関して「国会議員が先例となって率先して育児に参加したい」と発言し、自らが国会開会中に一カ月程度の育児休暇を取得したいとの意向を示しました。ところが翌年になってから早々にゲス不倫事件を起こしたために週刊文春に大スクープされる羽目になりましたが、彼が育児休暇などと騒がなければあそこまで世間に叩かれることもなかったように思います。その後、彼は

私をはじめとした議員仲間に何の相談や謝罪もなしに議員辞職をしてしまい、議員としてのみならず人間としても非常に幼稚な姿を世間にさらしたのです。

結局、彼の育児休暇発言にしてもパフォーマンスでしかなかったわけで、彼に誠がないことがあの事件によって人々に見透かされるという悲劇とも喜劇ともつかない出来事でした。口先だけで行動が伴わない人物はどこの世界にもいるものですが、彼の一連の行動を一方的に蔑めば済むという話ではありませんし、我々政治家は改めて身を引き締めなければと思わされる出来事でもありました。本年はあのようなことのないよう、しっかりと頑張っていく所存です。本年もどうかよろしく願いいたします。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>